

おぐい

● 広報



— 客人を迎える準備 —

冬の名物「越後屋の巨大かまくら」。べにばな国体の年に作り始めたという本間信義さんは、「少雪の中、周りに積もった雪を集めて地道に作りました。大きさは例年の半分くらい。3月に内孫が生まれることもあり、かまくら内部中央に野菜雛を設置しました。日々成長する野菜の様子も楽しみ。」と満足げに話してくださいました。かまくらは4月末まで楽しめるだろうとのことでした。

2020

3

No.785

緑のふるさと協力隊

～受け入れ開始から10年、
これまでを振り返って～



員伊藤 ▲第4代（第20期）隊員の濱田裕太 ▲第4代（第20期）隊員の樽川美穂
さん さん



隊員の山 ▲第9代（第25期）隊員の岩井拓磨 ▲第10代（第26期）隊員の千田有実
さん 子さん（右）

緑のふるさと協力隊

緑のふるさと協力隊は、農山村での活動や暮らしに関心を持つ若者が、過疎化や少子化に悩みながらも地域を元気にしようと地域再生に取り組む地方自治体に1年間住民として暮らし、地域の人と密接にかかわりを持ちながら農作業や地域行事など地域の求めに応じた活動に携わる若者の長期農山村活動プログラムとして、特定非営利活動法人地球緑化センター（小川俊一理事長・東京都）（以下「緑化

全国的な人口減少、少子高齢化が進む中、都市に住む若者を中心に農山村への関心を高め新たな生活スタイルを求めて移住する動きが活発になっており、そうした現象が「田園回帰」と呼ばれています。こうした中本町では、若者の力を借りながら地域を元気にしていくため平成22年度に緑のふるさと協力隊の受け入れを開始し、今年で丸10年が経過しました。10年間で13人の隊員が本町でさまざまな活動をし、現在も4人の元隊員が本町に定住しています。昨年12月には歴代の隊員や活動に関わった地域のかたに集まっていたき当時の思い出話に花を咲かせる10周年記念交流会を開催しました。今月は、緑のふるさと協力隊事業やこれまで活動した隊員や関わったかたの思いなどをご紹介します。



▲10周年記念交流会に集まった歴代隊員のかたがた



▲初代（第17期）隊員の栗本美紀さん（左）と大島綾香さん（右）



▲第2代（第18期）隊員の金野やよいさん（旧姓：神田）



▲第2代（第18期）隊員の中島萌（めぐみ）さん



▲第3代（第19期）隊員 正俊さん



▲第5代（第21期）隊員の宮本史人さん



▲第6代（第22期）隊員の窪田智成さん（右）



▲第7代（第23期）隊員の野口達光さん



▲第8代（第24期）隊員 中那智さん

受け入れ開始から10年

本町では、集落の維持保全のあり方や地域の魅力と底力を改めて評価し、地域内外に情報発信をしていくことを目的に、平成22年度から緑のふるさと協力隊の受け入れを開始しました。これまでに13人の隊員が南部地区や北部地区、沖庭地区、東部地区、白沼地区、東南部地区でさまざまな活動を展開してきました。

今年度、緑のふるさと協力隊センターという、若者の生

きる場所には農山村という魅力あふれるフィールドが存在することを知らせたい、都市と山村のゆがみという社会問題を捉えてもらいたい、という理念のもと1994年に緑のふるさと協力隊事業を開始し、現在の隊員を含めると26年間で800人近い若者を全国各地の自治体に派遣しています。

の受け入れ開始から10年の節目を迎えたことを記念して、これまで本町で活動した隊員や関わってくださった地域のかたがた、そして派遣元である緑化センターの担当者などを交えた10周年記念交流会を12月14日に町内で開催しました。当日は、歴代隊員8人と関係者約30人が思い出話に花を咲かせました。

この10周年記念交流会は、今年度本町に派遣されている第26期緑のふるさと協力隊の千田有実子さんを中心に、本町に定住し農業の仕事をする山中那智さん、任期後本町の地域おこし協力隊として活動する岩井拓磨さんが、企画から当日の運営まで行ってくれました。

千田隊員は、「昨年の夏頃から準備を進めてきました。歴代の隊員が遠くは九州や東京から小国に集まり、地域の人と昨日までいたかのように話す姿がとても印象的でした。隊員として1年間過ごしたことで、隊員には小国町と関わった地域のかたが、



▲昨年12月14日に開催した受け入れ10周年記念交流会

地域のかたには隊員が、それぞれ心の中に思い出として残っているのだなと実感させられました。また、本来の趣旨とは違いますが、いつもお世話になっている地域の人同士が『あの人名前は知っていたけど初めて話をした』と聞いて、町内の人と人をつなぐことができ、さらに交流を図ることができてとても

よかったです感じています。」と話してくださいました。

小国町での1年の生活

緑のふるさと協力隊の活動内容は、派遣される地域によってさまざまです。本町では、農家さんの指導の下農作業を行った、隊員が住む地域の年中行事やお祭りに参加したり、地域サロンに参加したりと多岐にわたる活動を行っています。また、町の指定文化財である「古田歌舞伎」に隊員が出演または協力するなどしています。さらに、本町独特の文化でもあるマタギ文化を肌で感じることもできるウサギ狩りなども多くの隊員が



▲第26期 千田 有実子 さん

経験しています。

本町が初めて受け入れを行った年の第17期緑のふるさと協力隊の大島綾香さんは、「小国町での生活は、地域のかたがたの温かさを感じた日々でした。当時はまだ社会にも出たことのない甘い考えの私にもとてもよくしていただきました。夏の自然の景色の色の濃さと夜の山の真つ暗闇がとても印象に残っています。東京ではできない体験をたくさんさせていただき、とても内容の濃い毎日でした。小国町で過ごした1年間で人として生きていく上で大切なものを学ばせていただきました。先日ので交流会は、東京に戻ってから初めての訪問で、気付けば10年も経過していました。小国駅が近づくにつれて電車の窓から見える景色に見覚えがあり、とても懐かしかったです。1期生だったこともあり、他の隊員と交流する機会もなかったので、交流会に参加して輪が広がってよかったです。10年ぶりでしたが、



▲第17期 大島 綾香 さん

地域の皆さんが覚えていてくださり、とても嬉しかったです。これをきっかけに、今後も小国町と関わっていきたいと思っています。」と話してくださいました。

地域のかたからの言葉

受け入れ開始当初から隊員と関わっていたいただいた伊藤良一さん（小玉川）は、「はじめは若い人が来て俺らどうしたらいいもんだがって戸惑いもあったけど、何やっても彼女たちには初めてのことだからな。4月に役場の人が隊員を連れてきて、近くで薪割りしているから薪運び手伝ってもらったりしたな。秋には稲刈りも教えながら精米か



▲隊員に倉手山を案内した際の伊藤良一さん（中央）

ら出荷まで手伝ってもらったりして。当時は俺もマタギの館にいたから2人に休みの日に手伝ったりもしてもらってた。どんな若い人が地域からいなくなってたから、外からせっかく来てくれた人に残ってもらえるように、地域のみんなでサポートしたもんだ。小玉川は熊まつりがあるから、来てすぐに地域行事に参加してもらって地域に溶け込んでな。帰るってなった時には梅花皮荘で送別会したりして。ほんと楽しかった。今でも新年のあいさつをメールでもら

ったりして、こないだも、久しぶりに元気そうな姿見られてほんとにいがったな。」と話してくださいました。

協力隊任期後はそれぞれ

緑のふるさと協力隊としての任期を終えると、それぞれの隊員が新たな人生のスタートとなり、派遣された市町村に残って定住する人もいれば、地元に戻り仕事をする人、大学等に復学する人などさまざまです。本町では、13人の隊員うち4人が現在定住しているほか、定期的に來町をしているなど、任期後にも関わりは深く、途切れることなく続けられています。

ほぼ毎年のように本町を訪れているという、平成25年度に活動をした第20期緑のふるさと協力隊の濱田裕太さん（長崎県出身・福岡県在住）は、「任期終了後、実家の畑と樹木の管理をしたり、自分が作ってみたい野菜を植えて、スーパーの生産者売り場に少量ながら置いてもら



▲第20期 濱田 裕太 さん

ったりしましたが、どれもこれも小国町の農家さんに教わった農業技術や販売方法を参考にしていました。本当に小国町での経験が役に立っています。先日10周年交流会では、協力隊の先輩や後輩、自分が知っている地域のかたや、知らなかったかたも含めて、10年間で積み重ねた歴史を感じられたイベントでした。僕は任期終了後から、年1回程度ですが小国町に遊びに行っています。お世話になった大家さんや農家のかたとの荷物のやり取りも年に数回あります。新潟・福岡の航空便があるので、いつか小国町のかたがたを九州でおもてなしできたらいいなと思っています。僕にとつて小国町はいつまでも『ふるさ

と』であり続けるので、時々里帰りしたときに元気な姿を見せられるように頑張ります。」と話してくださいました。

地域のかたからの言葉

濱田さんの協力隊当時の大家であり、他の隊員とも関わりのある今千代さん（小渡）は、「濱田君が来た年に、うちの研修旅行に私の仲間と一緒にいったんだけど、そしたら任期後に小国に帰って来ると、みんなが集まって飲んで盛り上がっていくようになったんだ。協力隊の時には、畑貸して自分で好きなもの植えろって言って、キュウリやナス、トマトとか色々作ってたな。夜退屈になると、作業してる私に『まだ仕事おわんねが』って来て、酒飲むかって聞くと喜んでね。よく2人で飲んでたよ。そして何でも相談してくるからめんどくて。地区の人とも仲良くしてたから、今も小国に来ると、前もってお土産送ってきて、回りながら配って歩いて



▲今千代さん（左）の家には協力隊以外にも多くの町外の若者が来訪している

るね。濱田君が来るとみんなが集まって大笑いして飲んでるね。何がよくて来るかわからないけど、来てくれるからありがたいわ。今でも何かあると連絡よこすし、来るって言えば部屋空いてっから自由に使えっ言っつて、本当に息子みたいなんもんだね。ああして来れば、みんなかわいいわ。」と話してくださいました。

任期後も小国町で

任期終了後、本町に定住し現在には所帯を持っている、平成24



▲伊藤さんは任期終了後も隊員時代の各種活動を継続中

年度に第19期緑のふるさと協力隊として活動した伊藤正俊さん（愛知県出身・叶水在住）は、「協力隊参加前は、愛知県で林業をしていて、仕事場まで毎日1〜2時間かけて通っていました。そうした中で、現場のような山村部に住んでみたいと思っていた時、協力隊制度を知り、1年だけならと思いい応募しました。主に南部地区で農家さんの手伝いや地区体協、青年団、消防団、民謡、ママさんバレー、北部中学校バレー部のコーチなどをしていました。受け入れ側も私が3期目ということもあって、『協

力隊か！』『今回は男か！』などの反応も良く受け入れてくれました。任期中にさまざまな活動に参加していく中で、人とのつながりができ始め、やり始めたことを中途半端でやめるのもつたいないですし、自分がやりたいと思えた仕事もありましたので、任期後も小国町に残りました。地元よりも人との関わりや飲み会が増え、人と人とのつながりや距離が近いというところが楽しいですね。最終的な定住の決め手は、小国町で結婚してローンで家を建てたことですね。先日の10周年交流会では、改めて小国にたくさんの方々が来ていたんだなと思いました。継続して受け入れていることは



▲伊藤正俊さんと長男の彩葉くん

すごいなと感じました。全国的に緑のふるさと協力隊は年々減少していますが、地域おこし協力隊のようにミッションなどもなく、ボランティアという感覚で気が楽ですし、任期中にやりたいことが色々探せるので、緑のふるさと協力隊はお勧めですね。」と話してくださいました。

農山村の魅力と力

特定非営利活動法人地球緑化センター事業部長の山岸貴生さんは、「初めての地域での生活や活動は想像以上に大変な面もある中で、隊員はそこでの暮らしや人間関係に慣れようと懸命に頑張っています。小国町では狩猟の経験をした隊員も多く、また雪国らしい暮らしの中で、他の地域にはない貴重な経験をしています。今後も隊員と町民の皆さんとが深く、広く交流していくことで町がもっと元気になるような事業になればと願っています。時代が進み、人と会話をしなくても生活ができ

るほど便利な世の中になっていきますが、人間の生活には、やはり人と人とのつながりが基本です。自然と寄り添い、他者を思いやる気持ちが大切にされている地域での生活は、今を生きる若い人にとっても、大切な価値観ではないでしょうか。」と話してくださいました。



▲地球緑化センター
山岸 貴生 さん

さらに、特定非営利活動法人地球緑化センターで事務局次長事務理事を務め、現在は日本森林林業振興会理事、地域おこし協力隊サポートデスクスーパーバイザーを務める金井久美子さんは、「10年間で13人の若者を手塩に掛けて育てて頂き、深く感謝申し上げます。隊員達のたくましく自信に満ちた表情に小国町の皆さんの温かさが映されて

いるのだと思います。隊員は特別な資格やスキルを持たない普通の若者ですが、さまざまな手伝いを積み重ねて地域から信頼を得ていきます。素人の若者一人に大したことはできませんが、その若者がいることで地元の人たちに意識の変化が起きてきます。愚直に懸命に取り組む若者に地元の人たちは『何かしてやりたい』『自分も何かやらないと』と動き始めます。今、各地で地方創生のため、地域おこしに尽力する外部人材を増やそうという動きがあります。さまざまな課題に悩む地域の活性化に企画力や即戦力も魅力ですが、それは、地域の信頼があって成り立つもの。よそ者は地域に信頼されて、はじめて力になれる。そして、地域の皆さんと一緒に汗をかき、声を聴き、語り合うこと。一方的な思いや数の大小ではなく、深く信頼関係を結ぶ人間が持つ熱量を活かせる仕組みや応援体制が大切です。若者の思いや存在自体が地域に変



▲地域おこし協力隊サポートデスク
スーパーバイザー
金井 久美子 さん

化を起こします。地域が若者から刺激を受け、自分達も何かやってみようという意識が芽生えてきます。私が関わった23年間738人の隊員を通して得た実感です。長い年月培われてきた文化や伝統、暮らしの知恵、そしてそこに生きる人々との営みのある小国町で隊員達はさまざまな経験をし、多くのことに気づきを得て成長してきました。日本各地にあった共同体は平成の合併で減少しました。しかし、小国町にはしっかりとその営みが残されていると思います。まさに『若者育ては村育て』の原点である将来の若者達のためにも、小国町の集落がいつまでも維持されていくことを願っています。」と話してくださいました。

持続可能なまちづくり

人口減少や高齢化が進む地方においては、地域力の維持・強化を図るための担い手となる人材の不足が大きな課題となっています。一方、生活の質や豊かさへの志向の高まりを背景に、豊かな自然環境や歴史、文化等に恵まれた地域で生活することへの欲求が増してきている。今、農山村の魅力とそこにある力をいち早く見出してきた緑化センター。この緑のふるさと協力隊事業は若者が農山村での生活を体験することだけでなく、そこに住む住民にも大きな影響を与え、その地域にさまざまな変化をもたらしてきた事業なのです。

町では、こうした外部人材を積極的に受け入れながら、小国町で活動する「協働人口」として、若者たちが地域に起こす変化を新しい地域づくりの源として、今後とも持続可能なまちづくりに取り組んでいきます。



令和元年度小国町スポーツ協会表彰式

103人の選手・指導者が県内外で活躍

令和元年度小国町スポーツ協会表彰式が、1月25日におぐに開発総合センターで開かれ、約200人のかたが出席しました。

式では、今年度各種スポーツ分野の全国大会や東北大会、県大会などの各種大会で優秀な成績を収めた選手や指導者103人に、それぞれの成績等に応じて殊勲賞や栄光賞、奨励賞などが送られました。受賞されたかたがたの今後のさらなる活躍・飛躍が期待されます。



第38回つる細工講習会

緻密な作業と熟練の技

つる細工講習会が、1月22日から24日まで飯豊梅花皮荘で開催され、遠くは鳥取県など県内外から49人が参加しました。今年初めて参加したかたが19人と参加者の腕前はそれぞれですが、参加者同士がつるの編み方を教えあったり、さまざまな情報交換をしたりしながら技術を向上させていました。この講習会は小国町観光協会が主催し、今年で38回目。今ではすっかり冬の小国町の一大行事となっています。



地域資源活用域学連携事業冬合宿

若者の視点での地域課題解決法を考える

地域資源活用域学連携事業の冬合宿が、2月11日から15日までの5日間、町内各所で行われました。冬合宿では夏合宿やその後の来町時にヒアリング等を行った農泊に関するプログラム構築を検討したり、本町のマタギとともに雪山トレッキングをしたりしたほか、木工館での箸やスプーン作り、本町の食文化体験などを行いました。最終日には、農泊プログラムや首都圏の人が本町に関わるきっかけ作りについての発表が行われました。

白い森地域学校協働本部文部科学大臣表彰受賞祝賀会

今後のさらなる飛躍を

令和元年度文部科学大臣表彰を受賞した「白い森地域学校協働本部」の関係者がおぐに開発総合センターに一堂に会し、1月26日に受賞祝賀会が行われました。祝賀会では、これまでの活動報告と、本の読み聞かせや長期休暇の際に子ども食堂を運営しているボランティアグループ「トライあんぐる」や放課後子ども教室ひだまり、小国小学校がそれぞれの取り組みを披露し、出席者で受賞の喜びを分かち合いました。





ペットボトルキャップ寄託

235.8キログラムで35人分のポリオワクチンに

発展途上国の子どもたちにポリオ（小児まひ）ワクチンを届けようと、2月6日、小国小学校（今秀之校長）が山形銀行小国支店にペットボトルキャップ235.8キログラム（ワクチン35人分相当）を寄託しました。

これは、児童会の環境ボランティア委員会が中心となって全児童が約1年間かけて集めたものです。環境ボランティア委員の横山敦紀くんは、「世界の子どもたちが救えるように、また来年も回収を継続し、今年以上にたくさん集めたいです。」と話してくれました。

「人生で1番の年」

緑のふるさと協力隊

ちだ ゆみこ
千田 有実子

初めての小国での冬。今年は、記録的に雪が降らない年でした。「小国の雪はすごいぞ」と春から言われていたので、少し拍子抜けではありました。とはいえ、私の人生の中では1番雪と触れ合う冬。雪かきはもちろん、かんじきで歩いたり、ウサギ狩り、かまくら作り、スノーモービルなど、雪がない中でも、全力で雪を楽しんでいました。

さて、1年間の緑のふるさと協力隊の任期も間もなく終了します。4月に小国に来た日が遠い昔のように感じ、その反面あっという間だったとも思う濃い1年でした。本当に色々な人によくしてもらい、沢山のことを教えてもらいました。そして、赤の他人の私に家族のように接してくれたことがとても嬉しかったです。任期が終わった後は、一度東京に帰る予定ですが、また小国に戻ってきたいと思っています。特に、「小国の冬」をちゃんと経験したいです。1年間ありがとうございました。



▲スノーモービル楽しかった！！

「最後の協力隊通信」

地域おこし協力隊

ねもと しゅんすけ
根本 俊輔

約3年間の地域おこし協力隊の任期を終えます。時が流れるのは早いですね。あっという間です。寂しいですね。東京で働いていた時に地域おこし協力隊をやると決断した日が懐かしいです。

小国町に来た2017年の7月は、ちょうどわらび園が終わった時期でしたので新股わらび園の飲み会に参加させて頂きました。この時にものすごく緊張してお酒をたくさん飲んだのが始まりでした。



▲3年間ありがとうございました

その後はいろいろと田植えや林業、学校の放課後活動や地域サロンの手伝い、各イベントの手伝い、古田歌舞伎の出演、伝統文化の撮影、クリスマスでサンタになったり、小国町を歩いて「りふれ」から「奥川入」まで縦断してみたり、ワラビーマンと親友になることも出来ました。

その他にも書ききれないほどありますが、それぞれが僕にとってかけがえのない貴重な出来事でした。ありがとうございました。

山の「豊かさ」を伝え継ぐ

⑩ ヒロイ・オツカワ（毛蓑）



▲ヒロイ（ミヤマカンスゲ）

ヒロイやヒロイなど地域で呼び名が異なる

かつて横川の最上流部には、滝集落が南北約6キロにわたり広がっていました。そこで33歳のときまで暮らしていたという横山清雄さん（昭和13年生まれ、幸町在住）にお願いして、昨年9月にヒロイ（標準和名ミヤマカンスゲ）という草を採りに山へ連れて行ってもらいました。それで、毛蓑（けみの）という蓑（イネ科植物やスゲの仲間な

どの茎や葉を編んで作った外衣）を作ってもらったためです。

現在のように化学合成繊維でできた雨合羽（カッパ）が普及する以前は、農閑期である冬に、各家で毛蓑を作り雨具としていました。しかし、カッパが一般的に用いられるようになるにつれ、日常生活から毛蓑は姿を消していききました。それとともに、毛蓑を作ることのできる人も町内ではごくわずかとなってしまいました。

ぞうり作り講座（地域学講座）をはじめ、さまざまなモノ作りの講師も務める横山さんは、その数少ない技術保持者の一人です。そこで、その製作技術を伝え残すため、材料採取から製作に至るまで一連の過程を映像で記録することとしたのです。

今回は、その作業の合間にうかがった、かつて滝にいた頃



▲ウリハダカエデ

名前のとおり木肌が瓜のような縞模様をしている

毛蓑作りについてのお話しを紹介します。

毛蓑を作るにはヒロイだけでなくオツカワと呼ばれる、ウリハダカエデの内皮も必要です。

「オツカワは、木の皮が浮きでてるうちは剥（は）げるな。秋になるとくっついてだめだ。俺はゼンマイ採りの時に剥いだ。良い木にぶつかったときに剥いておいて。わざわざ山さ採りに行くたって、そううまく良い木にぶつからねえから。切ったところに生えてきた2、3年目ぐらいの若いのが良いな。大きな木は剥がれねえし、皮厚くて全然だめなもんだ。」

ヒロイも夏ぐらいまでだと、ぶつぶつと（茎が）簡単に抜けて良いんだ。採ってきたのは1週間ぐらい陰干しして、あとはしまっておく。」と、横山さんは言います。

山から採ってきたオツカワとヒロイは乾かしたあと、冬仕事で毛蓑を作るときまでしまっておきます。

毛蓑は、着たときに表の面になる外層と、背中に触れる内層という、大きく分けて二つの層でできています。内層はほぼ全てをヒロイで作りますが、外層の首回りより先の肩部や背中部分には細く裂いたオツカワを編

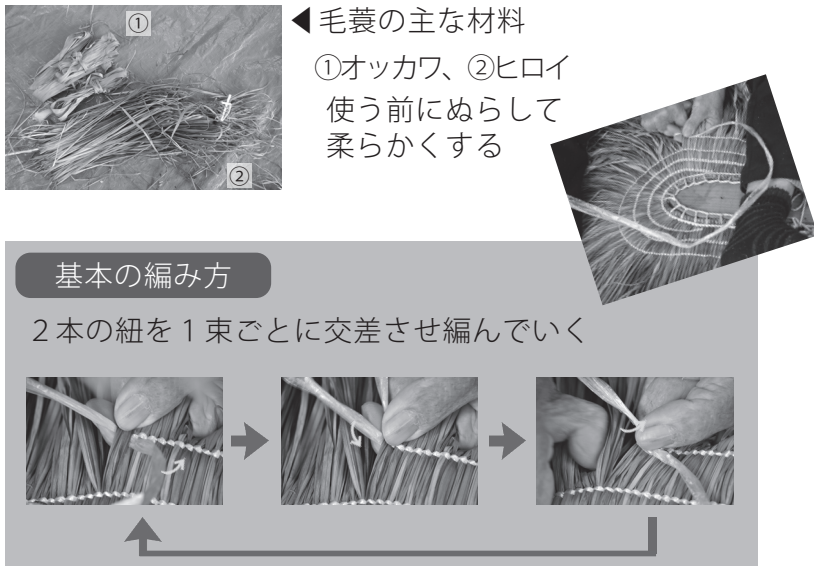
み込みます。一束、一束、丁寧
に2本の紐を交差させてヒロイ
を編み、あるいは継ぎ足し、そ
してオツカワを結いつけていき
ます。そのような地道な作業を
繰り返し、5日間にわたり計20
時間ほどかけてようやく1着の
毛蓑が完成しました。

「蓑作りは」父親がやってる
のを見たり聞いたりして覚え
た。中学校3年あたりからは作
ったな。うちの父親はそういう
の上手な人で、きれいな仕事し
ていたんだ。だから、自分で
作れねえ人は父親に頼んで、買
いに来てた。そうすると家族の
分、作れねえから、俺らが家族
用は作ってたんだ。20歳ぐらい
までは毎年な。昔は買うなんて

できねかったから、要るもの全
部自分の手で作らねばなんねか
ったんだ。夏使うものは全部、
冬のうちに準備してな。わらじ
なんか100足ぐらい作って下
げてたもんだぜ。」

と横山さんは教えてくれます。
学校を上がってから、集団移
転（昭和45年）で滝を離れるま
では炭焼きや木材伐採などさま
ざまな山の仕事で生計を立てて
いたという横山さん。そのよう
な山での仕事にはとくに、通気
性に優れた毛蓑だと汗をかか
ず、カッパよりも良かったと言
います。また、何段にも重なっ
たヒロイの束はクッションの役
割を果たし、雨の中、荷物を背
負うにも良かったそうです。

かつての暮らしには、この毛



◀毛蓑の主な材料

①オツカワ、②ヒロイ
使う前にぬらして
柔らかくする

基本的編み方

2本の紐を1束ごとに交差させ編んでいく

「縫う糸はみな山からアイコ
採ってきて、それを糸にして。
あれは濡れても腐らないから良
いんだ。ヒロイも腐んねえな。
表面を水流れていって、しみこ
まねえんだ、あんまり。ワラだ
と一旦濡れるとしまつてくなくな
ってしまつて、だめだ。そのまま
置くと腐つて、だんだん弱くな
ってしまふ。しかも重くてな。
オツカワも水がしみねえし、
丈夫なもんだ。だから表さくつ
つけるんだ。マダ（シナノキ）
皮つける人もいたども、あれは
乾き悪くてな。昔の人はやつぱ
り、あれ良い、これ良いってい
ろいろ考えて作ったもんだ。」

かつての暮らしには、この毛
蓑作りのように、自然に関する
実践的な知識にもとづき最良の
生活用品を、自分の手で生み出
すことのできる確かな「技」が
溢（あふ）れていました。どこ
から既製品を買って調達する
のではなく、身近な自然をうま
く利用することで自分たちの暮
らしを「豊かな」ものへとして
いく。そのような、先人たちの
生き方やそこに根ざしていた価
値観には、この自然豊かな小国
ならではの暮らしを創っていく
上で学ばべきことが多くあるよ
うに思えてなりません。

小国町議会臨時会

令和2年第1回臨時会が、1月29日に、第2回臨時会が2月25日に、それぞれ開催され、令和元年度一般会計補正予算案が審議され、原案のとおり可決されました。

【第1回臨時会】

一般会計に

2373万6千円を追加

ふるさと納税については、昨年12月定例会で寄附件数及び寄附額が増加したため、所要額を追加しましたが、年末の寄附件数が前年に比べ約2倍に増加したことから、返礼品およびふるさと納税寄附サイトに係る手数料に要する経費2373万6千円を追加で措置しました。補正後の予算総額は64億7847万3千円となりました。

【第2回臨時会】

一般会計に

2947万2千円を追加

■商工費では、異常気象による除雪機械の燃料費および修繕などの需要の減少、除

雪作業員賃金の減少に加えて、昨年10月からの消費税率の引き上げに伴う町内消費の低迷等による売り上げ減など、消費・経済の停滞から、経営に影響の大きい中小企業者に対し、必要な資金を融資することとし、新たに商工業経営安定化資金緊急融資事業を創設しました。これに伴い、資金融資に対する保証料補給と利子補給を行うため、所要額を措置しました。

■土木費では、記録的少雪である一方、気温差が大きく、道路の凍結と融解が繰り返され、凍結時のスリップ事故の危険性が懸念されます。このため、出動回数が激減している除雪の委託事業者に対し、融雪剤散布業務を追加したほか、各工区の除雪路線沿線等の支障木伐採と流雪溝関連施設の補修等業務を確保し、これに要する経費を措置しました。また、町道西滝市野々線新股地内の弥六沢橋付近へのガードレール等の交通安全

施設の設置費用と、除雪出動中に故障した除雪機械の修繕経費を措置しました。

小国町異常気象対策

連絡会議を設置

町では、今冬の異常気象に伴う少雪により、除排雪の稼働減による町内経済への影響に加え、長期的には水不足による渇水等も懸念されることから、飲料水や農業用水の確保など生活全般に係る対策を

講じることとし、1月24日に「小国町異常気象対策連絡会議」を設置しました。

この異常気象により、町内経済や町民生活全般への影響がでていることから、その対策を総合的に検討し、去る2月25日に開催された小国町議会臨時会において、中小企業者に対する資金融資の保証料及び利子補給、町道の維持経費など2947万2千円の補正予算案を提案しました。

studioこぐま

新メンバー紹介

名前 本間 かりん

年齢 25歳

出身地 山形県鶴岡市

活動拠点 studioこぐま

(旧小玉川小中学校)



2月3日、本間かりんさんに町長から地域おこし協力隊の辞令を交付しました。

●本間さんは鶴岡市出身の25歳で、東北芸術工科大学を卒業後、山形大学大学院で芸術分野を学び、学生の頃から本町を訪問し、熊まつりやウサギ狩りなどを体験しており、この度本町の地域おこし協力隊として着任しました。主に旧小玉川小中学校を拠点に活動する「studioこぐま」の各種講座の継続実施と児童生徒に対する芸術活動支援などを行います。

本間さんは「studioこぐまの活動を引き継ぎ、自分自身のステップアップもしていきたいです。よろしく願いいたします。」と意気込みを語りました。

令和2年3月2日(月)より小国町子育て世代包括支援センターを開設します

町では妊娠期から子育て期にわたるまでのさまざまなニーズに対して、切れ目のない支援を行うことを目的に「小国町子育て世代包括支援センター」を開設します。子育て世代包括支援センターでは、母子保健コーディネーター（保健師等）が、妊娠や出産、子育てに関する不安や困っていることなど、一人ひとりのニーズに合わせて情報提供や相談に応じるほか、個別の状況に応じて「支援プラン」の作成を行います。また、医療、福祉、教育機関などの関係機関と連携を図りながら、地域全体で子育てを応援します。

■相談例 初めての妊娠・出産で不安。出産までに何を準備すればいいかわからない。母乳が足りているか心配。赤ちゃんが泣いてばかりいて、どうしたらいいのかわからない。発達が気になるけど、だれに相談したらいいのかわからない。予防接種の受け方を知りたい。育児疲れでイライラしてしまう。離乳食はいつから始めたらいいのかなど

※ご家族のかたからの相談でもかまいません。何か心配なことなどがあったら、お気軽にご相談ください

■問合先 小国町子育て世代包括支援センター（健康管理センター内）（☎61-1000）へ

新型コロナウイルス感染症について

コロナウイルス全般の予防として、風邪やインフルエンザ対策と同様にこまめな手洗い、咳やくしゃみが出るときは咳エチケットなどがとても重要です。

山形県では、新型コロナウイルス感染症に感染した疑いのあるかたからの相談に対応するため、「帰国者・接触者相談センター」を設置しています。

■相談・受診前に心掛けていただきたいこと

発熱等の風邪症状が見られるときは、学校や会社を休み外出を控え、毎日体温を測定して記録しておく。

■次の症状があるかたはご相談ください

○風邪の症状や37.5度以上の発熱が4日以上続くかた

○強いだるさ（倦怠感）や息苦しさ（呼吸困難）があるかた

※高齢者や基礎疾患等のあるかたは、上の状態が2日程度続く場合

ご相談の結果、感染の疑いのある場合には専門の「帰国者・接触者外来」を紹介しています。マスクを着用し、公共交通機関の利用を避けて受診してください。

■連絡先 置賜保健所生活衛生課（0238-22-3002）へ

灯油購入費の助成について

昨年12月の隣組回覧でご案内しておりますが、町では冬季灯油購入費の一部助成を行っています。申請期限は令和2年3月31日までとなっていますので、お済みでないかたは早めに申請ください。対象は令和元年度の町民税非課税世帯であり、かつ65歳以上の高齢者、母子・父子家庭、障害者、在宅系施設利用者世帯になります。詳しくはお問合せください。

■助成額 上限5,000円（1世帯あたり）

■申請場所 小国町健康管理センター

■持参するもの ①申請者本人の印鑑②灯油を購入したことを確認できる書類（領収書等）③助成金の指定振込口座を確認できる通帳

■問合先 健康福祉課（☎61-1000）へ

入札結果情報（令和2年1月21日～令和2年2月20日実施）

単位(円)

入札日	工 事 名	施行場所	工期(完了)	予定価格	落札業者	落札価格
R2.1.31	令和元年度観光施設トイレ洋式化工事	小玉川ほか	R2.3.19	4,510,000	山一住設(株)	3,950,000

※入札結果情報の金額は消費税及び地方消費税を含みません。

令和元年度 山形県みどり環境交付金事業

「白い森おぐに」 森林理解と体験活動の取り組みについて

小国町は、全国有数の豪雪地帯であり、「ブナの森」をはじめ、町全体を覆い尽くすように落葉広葉樹林が広がっています。この豊穡の森の象徴であるブナの樹肌と、冬に降り積もる雪から連想される「白」。小国町では町全体を「白い森」と呼び、そこで培われてきた先人の技術と知恵である「ぶな文化」を基軸に町づくりを進めています。

今年度、小国町では、山形県みどり環境交付金を活用してさまざまな体験活動を開催し、次代を担う子ども達をはじめ多くの住民を対象に、森林や農林業への理解と促進を目的とした事業を展開しています。

森から拓く次代の生業づくり事業

【林業機械操作技術研修】

町民を対象に刈払機に関する安全衛生教育研修を行いました。機械操作技術の向上と安全な使用方法について学ぶことで、町内の森林整備の促進につながるものと期待されます。

▶刈払機研修会の様子



白い森づくり体験事業

【講話・森林体験学習】

町内小学生の親子を対象に、森林の働きや山火事注意のシンボルマークであるリスについての講話を行い、森林の大切さを学びました。

木工クラフトにより、それぞれの木や植物の種の特徴についての理解を深めることができました。



▲木工クラフト(写真上)、飛ぶ種を持つ植物(写真下)

◀森林の働き、山火事注意についての講話



森林資源利活用事業

【堆肥化事業】

森林内の落ち葉や土を活用して、家庭から出る生ごみを良質な堆肥にしています。化学肥料を使わず堆肥だけで育てた野菜は、町内の保育園で給食として提供されています。

◀落ち葉等を堆肥化し野菜を生産



生涯学習講座開設事業

【白い森子ども体験教室】

小学生を対象に町内に生息する生物の観察や森林散策を通じて、森林環境やさまざまな動植物の特徴と役割について学びました。



森林セラピー推進事業

【環境整備】

森林セラピー基地「ブナの森温身平」の機能と景観を保ち、訪れるかたがたが快適に森林セラピーを楽しむよう、セラピーロードの環境整備を行いました。

▶環境整備された森林セラピーロード



▲森の楽校「いちにち昆虫はかせ」(写真上)、「ブナの森の生き物探検隊」(写真下)

◀「小国の史跡めぐり」

白い森×ゴールデンフェスタ！

町では昨年度、白い森ブランド戦略の取り組みの一環として山形県の姉妹県であるアメリカ合衆国コロラド州を訪問し、同州デンバー市及びゴールデン市で本町のPRを行いました。特にゴールデン市については、クアーズデック・グループの本社があること、観光に力をいれた町づくりを行っていることなどから、友好関係の構築を目指し交流を図っているところです。

このたび、昨年度の訪問メンバーが「青い星と白い森」という国際交流団体を立ち上げ、昨年度のPRの様子やゴールデン市と小国町のつながりなどを紹介するイベントを企画しました。英語に親しむプログラムやコロラド出身ゲストの話、クアーズビールやアメリカ風ドリンクの提供、キッズコーナーの設置など、家族みんなで楽しめるイベントです。

あわせて、小国の食材のPRとして、やまがた地鶏のから揚げや米沢牛ステーキ、雑穀やきのこのオリジナル料理を、バイキング形式でお楽しみいただけます。お誘いあわせのうえ、ぜひご参加ください。

Howdy Folks
白い森 x GOLDEN FESTA

コロラド州
ゴールデン市
ご存知ですか？

白い森おぐにと米国ゴールデン市の美味しいもの、
楽しいこと、繋がりが体感できるフェスタ！

3月8日 日曜日
会場：旬菜レストラン あいあい
開催時間：午前10時～午後2時

小国町とゴールデン市の 特産品がコラボ！ 2ドリンク+特別バイキング 2,000円 (ノンアルコールの場合は1,000円) ・米沢牛ステーキ ・クアーズビール も楽しめます	ゴールデン市って？ 2018年に訪問した時の 写真や動画で、小国町と ゴールデン市のつながりを 紹介します。 コロラド出身者の ゲストスピーチもあるよ...	大人も子供も 英語に親しもう！ A B C ・キッズコーナー ・英語あそび ・ロコバック作り などなど 体験型ワークショップ
---	---	--

主催：青い星と白い森 共催：山形県小国町
お問い合わせ先：090-9328-4013 (代表 高橋)

■日時 3月8日(日)10:00～14:00

■場所 旬菜レストランあいあい

■その他 出入り自由です。飲食の際は当日会場でチケットを購入してください。2ドリンク付き2,000円(ノンアルコールの場合は1,000円)

～白い森まるごと塾Vol.12～

クラウドファンディングやってみよう！

クラウドファンディングの基礎や成功事例を学び、実際にクラウドファンディングページを作成するワークショップも行います。ご興味のあるかたは、ぜひご参加ください。

■日時 3月5日(木)14:00～16:00 (※終了後、個別相談を実施)

■会場 おぐに開発総合センター 集会室

■講師 株式会社CAMPFIREキュレーター 竹内 一平 氏

■コーディネーター 白い森おぐにビジネス創出塾 石井 宏和 氏

■内容 資金調達だけじゃない！クラウドファンディングの活用方法、クラウドファンディングを成功させる秘訣、クラウドファンディング実践編、「実際にページを作ってみる」

■申込・問合せ先 白い森ブランド戦略室 (☎87-0821) へ

募集

町営住宅入居者募集

①町営住宅小坂町団地

3DK 3戸(1・4階)

■家賃 所得と家族構成による

■その他 所得制限あり

②町営住宅あけぼの高齢者団地

1LDK 1戸(1階)

■家賃 所得と家族構成による

■対象

▽世帯所得が15万8千円以下

で住宅に困っているかた

▽60歳以上のかたで自立した

生活を送ることができ、同

居するかたが配偶者または

60歳以上の親族であること

①②共通

◎敷金 家賃の3カ月分

◎募集期限 3月10日(火)

◎入居時期 4月上旬以降

◎問合先 地域整備課建設管

理室(☎62・2431)へ

令和2年度民間国際交流
団体活動推進支援助成事
業の募集について

県内の民間団体が行う地域
の国際化を推進する事業に対

し支援を行います。希望団体
は6月15日(月)までに申請く
ださい。ただし、4月から6
月にかけて実施予定事業につ
いては、3月31日(火)までに書
類を提出してください。

■上限額 20万円

■対象 令和2年4月1日か
ら令和3年3月31日の間に
行う事業

■問合先 (公財)山形県国
際交流協会(☎023・

647・2560)へ

「日本一美酒県 山形」
フェア

■日時

3月21日(土)10時～17時

3月22日(日)10時～16時

■場所 山形国際交流プラザ

山形ビッグウイング(山形
市)

■内容 県産酒の試飲・販

売、食品や工芸品の販売等。

試飲にはチケット(前売券

2000円)が必要です。

■問合先 「日本一美酒県山形」
フェア実行委員会(県商業・

県産品振興課)(☎023・

630・2542)へ

後期高齢者医療保険料の
保険料率が変わります

後期高齢者医療制度の保険料率は、医療費な
どの推計を基に2年ごとに見直しを行っていま
す。令和2・3年度の保険料率は、次のとおり
に改定されます。

■保険料率(平成30・31年度→令和2・3年度)
○所得割率 8.01% → 8.68%
(所得に応じて負担していただく分を算定する際の率)
○均等割額 4万1,100円 → 4万3,100円
(加入者が公平に負担していただく分)
○賦課限度額 62万円 → 64万円
(年間保険料の最高額)
※保険料率の詳細は7月に保険料額決定通知書と
ともに送付されるリーフレットに記載されます。

後期高齢者医療保険料の 保険料率が変わります

後期高齢者医療制度の保険料率は、医療費な
どの推計を基に2年ごとに見直しを行っていま
す。令和2・3年度の保険料率は、次のとおり
に改定されます。

■保険料率(平成30・31年度→令和2・3年度)
○所得割率 8.01% → 8.68%
(所得に応じて負担していただく分を算定する際の率)
○均等割額 4万1,100円 → 4万3,100円
(加入者が公平に負担していただく分)
○賦課限度額 62万円 → 64万円
(年間保険料の最高額)
※保険料率の詳細は7月に保険料額決定通知書と
ともに送付されるリーフレットに記載されます。

■保険料軽減特例(令和元年度→令和2年度)
○均等割保険料の軽減割合
8割軽減 → 7割軽減
8.5割軽減 → 7.75割軽減
○均等割保険料の軽減対象の拡大(低所得者の負担軽減)
■問合先
町民税務課国保医療担当(☎62-2261)へ

奨学金の貸与を受けている 若者の本町回帰を支援します

町では、若者の本町回帰・定住を促進するため、
山形県と連携して、奨学金の貸与を受けている大
学生等に対し、奨学金の返還支援事業を実施して
います。

■対象者 次の項目すべてを満たすかた
①県内に居住し、県内の高等学校等を今年度卒
業見込みのかた、または既に卒業したかた
②国内の大学等に令和2年度に進学予定のか
た、または在学中のかた
③日本学生支援機構の第一種または第二種奨学
金の貸与を受けているかた、または受ける予定
であるかた
■助成内容 大学等を卒業後、6カ月以内に県内に
居住して県内企業に就業し、かつ3年以上居住、
就業を続けた場合に最大で124万8千円の助成が
受けられます。(※なお、この他にも諸条件があ
りますので、応募の際にご確認ください。)
■募集期間 令和2年4月24日(金)まで
■応募・問合先
総合政策課政策企画担当(☎62-2264)へ

3月の 保健カレンダー

1. 各健診の日程等

■4カ月児健診

- ・期 日 3月13日(金)
- ・受付時間 13:05~13:15
- ・対 象 令和元年11月生まれ

■1歳児健診

- ・期 日 3月13日(金)
- ・受付時間 13:00~13:10
- ・対 象 平成31年4月生まれ

■1歳6カ月児健診

- ・期 日 3月6日(金)
- ・受付時間 12:30~13:00
- ・対 象 平成30年7月、8月、9月生まれ

2. 場 所 健康管理センター

3. その他

母子健康手帳を持参ください。

4. 問合先 健康管理センター (61-1000) へ

子育て支援センターから

■3月の広場日程

広場名称	曜日	時間	申込
なかよし広場	月~金	9:30~11:30・13:00~15:30 (水・金は午後のみ)	不要
子育て講座 「絵画製作」	3月3日(火)	9:30~11:30・子育て支援センター	必要

■対象者 なかよし広場・子育て講座 就学前のお子さんとお家のかた

■その他 お気軽にご参加ください。平日はいつでも子育て相談に応じています。また、白百合保育園(水曜午前)、すみれ保育園(金曜午前)でも同様の場所を設けています。詳細は各保育園にお問い合わせください。

■問合先 子育て支援センター(おぐに保育園内 ☎62-2330)・白百合保育園(☎62-2436)・すみれ保育園(☎62-5284)

休日当番担当歯科医のお知らせ

3月8日(日)	高畠	ますぶちデンタルクリニック	0238-52-0014
3月15日(日)	米沢	中川歯科医院	0238-23-2062
3月20日(金)	高畠	八木歯科医院	0238-52-0117
3月22日(日)	米沢	仁科歯科医院	0238-21-5838
3月29日(日)	米沢	漆山歯科医院	0238-23-4840

求 人 情 報

右の表は2月18日現在でハローワークへ登録された求人のうち、小国町をおもな就業先としている求人情報です。既に雇用が確定している場合もありますので、ご了承ください。

求人情報の詳細については、ハローワーク長井(☎84-8609)へ。

今月の納税 2020.3

3月の税金等の口座振替は、次のとおりです。振替日の前日まで、指定の口座に入金してください。

- 3月26日(木) 水道料
- 3月31日(火) 国民健康保険税・後期高齢者保険料、介護保険料、下水道料、簡易水道料、住宅使用料、保育料、児童福祉使用料

■問合先

町民税務課税政管理室
(62-2403) へ

事業所名	職種	求人数	勤務時間
長谷川工業(株)	加工スタッフ(SiC)	1人	8:30~17:00
吉田直土木(株)	トンネル工事職員 (正社員・契約社員)	各2人	7:00~16:00他
日本道路興運(株)新潟営業所	自家用自動車の運転と管理	1人	8:30~17:30
医療法人社団 緑愛会 満天の家	介護職(交替制)	1人	6:45~15:45他
ハイコー(株)	電気工事(見習い可)	3人	8:00~17:00
安部工業(株)	運転手	2人	8:00~17:00
	型枠大工	1人	
	現場監督員	2人	
(株)山芳工務店	電気設備工(見習い)	3人	9:00~18:00
ひさで電材(株)小国工場	電線のアッセンブリー及び検査	1人	8:30~17:30
	内職担当	2人	8:30~17:30
特定非営利活動法人まんまる	支援員	2人	8:30~17:00
北陸土木サービス(株)	(請) 土木技術者 (工事監督支援)	1人	8:30~17:15
(株)コメリ	店舗運営職・幹部候補 (ナショナル社員)	1人	8:45~17:45他
第一貨物(株)長井支店	PC入力・帳票出力作業	1人	14:00~18:00

※先月号掲載分以降に新規で登録された求人掲載しています。

※町ホームページに求人情報を掲載しています。

3月の あいベイイベント ゴルフ教室



- 日 時 3月21日(土)18:00～20:00
- 対象者 どなたでも
- 内 容 ゴルフの基本から楽しめます
- 持ち物 室内シューズ、クラブ（貸出可）
- 参加費 100円（保険料込）
- 申込締切 3月19日(木)

小学生春休みスポーツ教室

- 期 日 3月24日(火)～27日(金)の4日間
- 時 間 9:30～11:30
- 場 所 町民総合体育館
- 対象者 小学生
- 内 容 バスケットボール、スラックライン、けん玉、ドッジボールなど
- 参加費 1人100円/日（保険料込）
- 申込締切 3月19日(木)

■申込・問合せ
(☎62-5808)

おぐにYui
スポーツクラブ

こころの健康相談 統一ダイヤルのお知らせ

3月は「自殺対策強化月間」です。毎年この期間中の1週間を「こころの健康相談統一ダイヤル」として、悩みを抱えた人の相談をお受けしています。

■相談期間 3月1日(日)～7日(土)9:00～17:00

※期間中は土日とも相談を受け付けます。

■電 話 0570-064-556

※PHS電話、IP電話、プリペイド式携帯電話からは接続できません。

■その他 上記期間以外は「023-631-7060」で月曜から金曜日（祝祭日・年末年始を除く）の9時から12時、13時から17時の間相談を受け付けています。

総合センター図書室から

～新着図書～

- ◇勿忘草の咲く町で
- ◇私の家
- ◇わが殿 上・下
- ◇三鬼
- ◇高校生からわかる「資本論」

休館日 毎週月曜日・祝日

- 夏 川 草 介
- 青 山 七 恵
- 畠 中 恵
- 宮 部 み ゆ き
- 池 上 彰

くりえいと工房再生品提供について

千代田クリーンセンターくりえいと工房では、粗大ごみとして搬入された自転車や家具を修理再生し、展示及び提供を行っています。

■提 供 品 自転車10台、家具類5点（各回予定数）

■応募方法 工房に備え付けの申込用紙により応募してください。複数応募があった場合、抽選により当選者を決定します。

■時 間 午前9時から午後4時まで

■料 金 無料

	展示期間	公開抽選 ※午前10時	引取期限
第1回	4月6日(月) ～5月9日(土)	5月12日(火)	6月6日(土)
第2回	6月10日(水) ～7月11日(土)	7月14日(火)	8月1日(土)
第3回	8月5日(水) ～9月5日(土)	9月8日(火)	10月3日(土)
第4回	10月7日(水) ～12月5日(土)	12月8日(火)	12月26日(土)

■問 合 先 千代田クリーンセンター
(☎0238-57-4004) へ

“共に生きる”講演会

■日 時 3月13日(金)13:00～15:00

■内 容

1) 講演 「共に生きる～生きづらさを抱えた方と支える方へのメッセージ～」

講師 公立大学法人山形県立保健医療大学
保健医療学部看護学科教授 安保寛明 氏

2) 当事者からのメッセージ「ひきこもりを経験して」

3) トークセッション

■対 象 関心のあるかたどなたでも

■場 所 置賜総合支庁西置賜地域振興局
(長井市)

■参加費 無料

■申込締切 3月5日(木)

■申込・問合せ

置賜保健所地域保健福祉課精神保健福祉
担当 (☎0238-22-3015) へ



●小国町役場 ☎62-2111(代)fax62-5464
 ●総務課 (行政管理担当/管財・危機管理担当/財政担当) ☎62-2112 ●総合政策課 ☎62-2264
 ●会計室 ☎62-2406 ●観光経済室 ☎62-2416 ●農林振興室 ☎62-2408
 ●住民窓口担当・町民生活担当 ☎62-2260 ●国保医療担当 ☎62-2261 ●税政管理室 ☎62-2403
 ●建設管理室 ☎62-2431 ●建設技術室 ☎62-2432 ●議会事務局 ☎62-2448



戸籍のまど

(1 月 届 出 分)

誕生おめでとうございます。

兵 庫 館 塚 原 滉 (香 志 男 知 香 子)

結婚おめでとうございます。

(大 宮 齋 藤 亜 成 山 形 市 山 木 彩 有 里)

おくやみ申し上げます。

小国小坂町	渡 部 珍 三	(91)
北	佐 藤 一 子	(89)
若 山	舟 山 亨	(86)
金 目	齋 藤 ト メ	(98)
長 沢	益 田 信 司	(83)
西	木 村 信 雄	(101)
若 山	舟 山 辰右エ門	(93)
増 岡	飯 澤 喜智雄	(84)
小国小坂町	古 藤 佐世子	(88)
岩 井 沢	吉 田 久 美	(53)
緑 町	小 松 清	(96)
玉 川	横 山 正 男	(84)
河 原 角	伊 藤 重 廣	(71)

※この欄に掲載を希望しないかたは、届出の際にお申し出ください。

人口のうごき (令和2年1月31日現在)

人口	男・・・3,666人(－12)
	女・・・3,718人(－4)
	計・・・7,384人(－16)
世帯数	3,020世帯(－6)

編集後記

例年になく少ない雪に加えて、全国的には新型コロナウイルス感染症が拡大を続けており、さまざまなイベントや行事が中止となつています。まだ山形県では新型コロナウイルス感染者は報告されていませんが、交通の便が良くなった今、どこでものよう感染するかわかりません。インフルエンザも同様ですが、自分ができる対策をして、自分が、そして周りが感染しないように予防していきたいですね。(斎藤)

仕事 vol.21 図鑑

猪野電気工事株式会社

代 表 者 代表取締役 猪野 貴裕
 従 業 員 数 14人
 所 在 地 小国町大字町原356番地14
 事 業 概 要 電気設備工事、配電設備工事

猪野電気工事(株)に勤める長井市出身の四釜浩也さん。四釜さんは長井工業高等学校の電子システム科で電子・電気分野を学び、在学中に第2種電気工事士を取得し、卒業後も高校での学びや資格を生かすため同社に入社し、今年で入社6年目。四釜さんは、「仕事の現場でも高校生の時に学んだことが生かせる場面が多くあり、高校時代に電気工事士の資格取得をしてよかったと感じています。一方で、一般住宅や各施設の配線図は、学校で学んだことだけでは通用しない場面もあり、電気工事は本当に頭の使う仕事であり、経験を積むことで自分の引き出しも増えるのだと実感しています。今後は多くの現場を経験し、優しく指導してくださる親方の指示やアドバイスを聞きながら、さらには親方の仕事を見て学び、日々勉強をしながら早くひとり立ちして一人前の電気工事士になりたいと思っています。」と話してくださいました。

猪野電気工事(株)は、昭和21年の創業から74年を迎える歴史のある電気工事屋です。創業以来、信用・信頼される会社をモットーに、電気設備の新設、改修工事、空調、消防、通信、ポンプ設備等の点検・修理など本町のみならず西置賜地域や新潟県下越地域の電気機器・設備の困りごとに迅速かつ丁寧に対応しています。猪野代表取締役は、「当社には置賜全市町と新潟県から通う従業員がいます。会社としては事業継承も重要ですが、若い世代への技術継承も大変重要になります。長い歴史の中で取引のあるお客様のためにも、しっかりと技術継承をおこなえる体制を整えていければと考えています。」と話してくださいました。同社では、地域社会に貢献できる電気工事屋を目指し、電気工事のプロである社員全員が日々研鑽を絶やさず、お客様が安全・安心して生活できる環境づくりに尽力しています。



▲施設の電気設備工事をする四釜さん

ドローンがみた、 おぐにの風景

No.10



⑩「桜川溪谷（明沢川）」

大字綱木箱口地内の明沢川に架かる3つの橋梁。手前から国道113号、JR米坂線、そして三島県令によって開削された小国街道。小国の交通には「箱ノ口からおよそ4キロの上流に、岩壁に囲まれたみごとな溪谷がある。俗に『桜川溪谷』とよんでいる。東北地方では、このように岩壁で囲まれた溪谷を『ハコ』と呼んでいる。（中略）下流の箱ノ口の地名も『ハコの入り口』の意味から生まれたものであろう。」とあります。断崖絶壁の交通の難所であったこの場所は、越後米沢街道はもちろん、古い道はすべてこの溪谷を避けていましたが、明治時代に三島県令により開削され、その後は多くの人が行き交う場所になりました。今では紅葉など楽しみも多い場所となっています。